

7月末の朝のTV、絵本作家ヨシタケシンスケさんが登場し、彼の創作の思いを語っていました。

「老い抜かれるのは嫌よ」と言っ人もいる

一方、私の身の回りでは百歳近い高齢者の方々が、思い通りにならなくなった身体への悩みを訴えられます。題のように、頭は往時の勢いを追い求めておられます。沢山の医者を受診しています。

仏陀（悟りを開いた人）は、その生の後半を教え伝える旅に出て80歳で没しました。痛む腰や足をかばいつつ歩き、布施の食事に当たり食中毒で亡くなったのです。前もって仏陀は、弟子にはその食事を食べないよう言い、提供者が責められぬよう謝辞も伝えました。そして涅槃を迎えます。この世の中、自分一人が幸せに死にたいと願うのも、やはり煩惱の只中にあるのかもしれない。

コロナは蔓延期になったのでしょうか

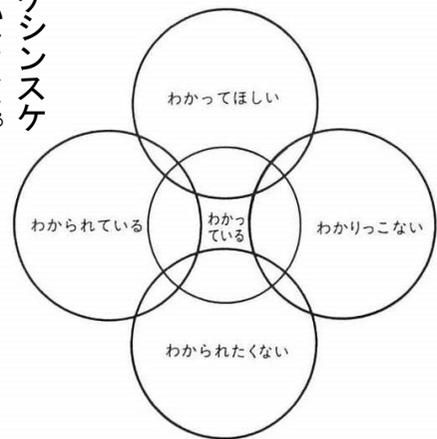
全国同時に増えていますので、コロナウィルスは広汎に潜在しているのでしょう。3密厳守を繰り返す宣言するだけではダメな段階です。適切な対応とは、感染者が出たら尊厳を守って治療し、拡大防止策は範囲と期限を区切り明示すべきです。社会全体を病院内の扱いにはできません。生活の場はインフルエンザ重症化防止に準ずるべきです。



暑中見舞い申し上げます

ひまわりが咲き始めました。50年前の映画もこの題です。戦争に翻弄された愛の悲劇でした。一面の花の下は、亡骸が埋まる場でした。

共感することって難しい！  
医療でも介護の場でも、お互いが分かりあうことが第一の原則だと言われます。しかし分かりあうこと、それも言葉を通じては難しい注文です。



図に示したように、気持ちの中には、「分かられたくない」「わかりっこない」感情も混ざります。お互いに相手の心に共感するというのは大それたことなんです。私たちは、分かってももらえないのは相手のせいだと思いがちです。ね。さてお盆も近く再び仏陀の話。愛児を亡くし取りすがって泣き叫ぶ若い母がいました。何とか生き返らせてほしいと懇願する母に、「ケシの実を持ってきなさい。今までに一度も死人を出したことの無い家から、もらってくるなさい」と話します。必死に探し回る母は、そのような家は一軒もないことに気づきます。自分の感じている悲しみが、どの家にもあること、村の中で、まなざしを交わしつつ知ったのです。

仏陀は、深い悲しみを言葉で説得せずに、共感に到達するための時間と方法を、優しく投げかけたのでしよう。在宅での共感をどう得ていくのかは、まずは私たちの側の責務だと思えます。

健診・がん検診は例年どおり実施しています

11月までに、落ち着いた日程で予約ください。

8月のお盆の休診期間のお知らせ

13日(木)〜16日(日)です。定期休診日も含んでいます。この間も、在宅患者さんには、対応をいたします。



自宅での人生を  
最期まで支援します

〒516-0805  
三重県伊勢市御園町高向 927  
電話 0596-20-8104  
ファクス 0596-20-8105  
メール [homecare@kr.tcp-ip.or.jp](mailto:homecare@kr.tcp-ip.or.jp)  
<http://isezaitaku.com>



→バックナンバー閲覧可